

6章 教会の目的

啓示された奥義

アダムは「神のかたち」に創造されました。そして神と共に世界を治める「副統治者」に任命されました（創世記 1:26-28）。しかしアダムは、神が願っておられるようには地を統治しませんでした。かわりに、神に反逆し、自己中心的な選択をし始めたのです。聖書は、その時点で造られたすべてのものが墮落したことを明らかにしています。

この時以来、神は歴史を通して、被造物を贖い、アダムから始まった宇宙規模の崩壊を回復してきておられます。神は聖なる約束（聖契）を与え、モデルとなる国家を選び、御子を遣わされました。段階的に、神は少しずつその秘密を～崩壊した世界にどのように癒しをもたらし、万物を修復されるのかという神の奥義～明らかにしてこられました。

奥義の解き明かし

エペソの教会に宛てた手紙の中で、使徒パウロは、神が意図しておられる奥義、すなわち、罪によって破壊された世界を回復する神の御計画がどのようなものであるかを伝えています。神は、まずパウロに奥義を明らかにし、そしてパウロがこの奥義を他の人々に伝えるようにされたのです。もはやそれは神の内に秘められた事柄ではなくなりました！パウロは書いています。「この恵みを、神は私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。」（エペソ 1:8-9）

「奥義」を要約するとこうなります：**アダムの反逆によって崩壊したすべてのものは、再び回復され、調和のとれたものにされる。**救い主をこの世に送ることによって、神はすべてのものをご自分のものとして回復なさるということは、創造以前から計画されていたことであり、このことは、救い主を通して、被造物が創造者の意図・御心・命令に服従することによって起きる。

パウロが語った言葉からそれを見てみましょう。パウロは奥義の目的を「**天にあるもの地にあるものがこの方であって、一つに集められるのです。**」（エペソ 1:10）と記しています。

救い主であるお方の下にすべてが集められるというこの啓示がパウロの時代に与えられたのです。ある注釈者は、以下のように記しています。

ユダヤ人たちは単にユダヤ国家の救世主を期待していました。ところが神が意図された救い主は、「全世界の救い主」という称号すら十分ではない、「全宇宙の救い主」だったのです。

パウロはこの奥義を伝える前に、この啓示が与えられたのは当時の書簡の読者たちだけではなく、現代に生きる私たちも含まれるということを明確に指摘しています。

この方であって私たちは御国を受け継ぐ者ともなりました。みこころによりご計画のままをみな行方目的に従って、私たちはあらかじめこのように定められていたのです。

(エペソ 1:11)

この奥義は、私たちと深い関わりをもつものであるということを明確に示しています。ですからパウロは、奥義を分かち合う準備として、読者の目が開かれ、神の偉大な目的を実行に移す人々が、その大きな相続財産と復活の力を深く知ることができるように、と祈っているのです。

奥義の扉が開かれる

パウロは、「天にあるものも地にあるものも、いっさいのものが、キリストにあって、一つに集められる」(エペソ 1:10) ことが奥義であると記し、エペソの教会にその詳細を明らかにしていきます。奥義のいくつかの側面を理解するために、続く聖句を見ていきましょう。これは非常に重要なことです。パウロの時代同様に、現代を生きる我々にとってもそれらは真実だからです。

「また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。」

(エペソ 1:22-23)

1) パウロは、「神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ」と記し、神の御計画は、キリストを通して「いっさいのもの」を和解させることであると確認しています。神によって「いっさいのもの」がキリストの足の下に置かれるのです。

2) 「いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。」キリストは、いっさいのもののかしらであり、すべてがキリストの足の下に置かれていると言われていることは理解できます。しかし、そのキリストを「教会に」お与えになった

のは何故でしょうか？神は、教会にどれほどすばらしい計画を用意しておられるのでしょうか？パウロはエペソ人への手紙3章で、それを明らかにします。

3) パウロは「**教会はキリストのからだである**」と記しています。教会がからだに例えられています。からだは頭が考えたことを実行に移すのです。キリスト（頭）が持つおられる計画は、そのからだ（教会）が持つ計画と同じであることは明らかです。これは大切なことです。キリストと同じ計画を持つ存在～それが教会なのです。そしてキリストは、父が持つおられる計画と同じ計画を持つておられるのです。

4) そしてパウロは、キリストの体である教会を、「**いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところ**」と説明しました。教会はキリストが満ち満ちた姿であると言われていました。しかし残念なことです。今日の多くの教会の姿は、キリストの満ち満ちた姿というよりも、崩壊した世界の姿を顕しているように見えます。キリストが満ち満ちた姿が教会本来の姿ですが、その可能性を十分に顕することができずにいるのです。教会は、キリストの満ち満ちた姿というその本来の自己像にふさわしい姿に到達していません。教会がもしその姿に到達するなら、(キリストがそうであったように) 教会は、「**いっさいのものをいっさいのものによって満たす**」ことになることでしょう。

5) その後パウロはこの奥義を、エペソ人への手紙でこのように述べています。「**その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。**」(エペソ3:6) パウロは、今や異邦人もキリストのからだの一員であると説明しています。互に敵対している者同士が、家族としてひとつにされるのです。キリストは、分断され、争い合う人々の間に、ご自分のからだである教会を通して、平和をもたらしてくださるのです。(今日においても、以前は敵対していた者同士が、キリストのからだによって一つとされています。次項枠内の手紙参照。)

ルワンダ キガリ

1997年4月

ボブ兄弟へ

今月は、1994年に起こった大虐殺の追悼月間です。昨日、10,000人のクリスチャンが第二歴代誌7章14節のことばを心にしっかりと抱いてキガリの街を行進し、賛美を歌い、神を誉めたたえ、悔い改めをし、平和と安全とを祈りました。

行進の終着点の国立競技場で、すばらしいことが起きました。以前私たちの教会員であったヘレン・Mという女性が、この大群衆の前で、E氏の傍に立っていたのです。E氏は、ヘレンの夫を殺した男性です。彼女の味わった喪失感、悲しみ、苦しみは深い辛いものだったに違いありません。

ヘレンと並んで立っていたE氏が会衆に向かって言いました。「私はもはや自分をフツだと言いたくありません。ツチもフツも、神の前に救われていなければ同じことだからです。私はあなたの夫をなぶり殺しにした者たちと一緒にいました。彼がツチであるというだけの理由で、皆と一緒に虐待し、私が彼の息の根を止めたのです。その後、イエス・キリストを信じるようになったのですが、「ヘレンに会って、彼女の夫を殺したのは私だということを告白しなければ」という強い思いが生まれ、心に平和がありませんでした。私はブルンジにいる彼女に手紙を書き、赦しを請うために彼女を訪ねました。」

彼女は言いました。「神があなたを赦したのであれば、一体私が何者だからと言うので、あなたを赦さずにいられるでしょうか。」ヘレンはE氏を赦したのです。全員が涙を流しながら見守る中、ふたりは抱き合っていました。

あなたの同労者であり兄弟

サイモン

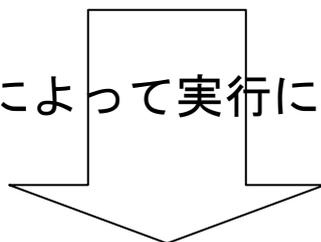
6) パウロは次に、「・・・世々隠されていた奥義の実現が何であるかを、明らかに」(エペソ 3:9) する恵みを神からいただいたと書いています。彼は、奥義がどのように実現されるのかを明らかにしています。「実現」ということばはギリシャ語の「koinonia」(参加するという意味) から派生したものです。その流された血によって崩壊した世界を神と和解させてくださったお方、キリストご自身が「奥義」です。教会がキリストの働きに参加することによって、「いっさいのもの」を神と和解させるキリストの働きが全うされるのです。教会こそが神の奥義を実行に移すという重大な役割を与えられた存在であるということ、パウロは伝えています。

7) パウロは続けます。「・・・教会を通して、神の豊かな知恵が示されるためであって」(エペソ 3:10) 神の御計画は全てのものを回復することであり、その豊かな知恵は多方面にわたる、広がりのあるものです。神の御計画は、霊的な領域に限定されたものではなく、原罪によって崩壊したいっさいの被造物を含んでいます。キリストの意図に従う教会は、神の多面的な御計画(すべての被造物を回復する)を世に顕し、この奥義を実行に移すのです。「この節に書かれている教会の役割を思う時、ただ呆然としてしまう」とある人が書いていましたが、私は心の底からうなずきました。教会に与えられている可能性の大きさは、ただ呆然とするしかないほどのことです!そして、奥義の啓示はさらに続きます・・・。

8) この箇所では、さらにこう言われています。「これは、今、天にある支配と権威とに対して、教会を通して、神の豊かな知恵が示されるためであって、」(エペソ 3:10) 過ぎ去った時代には神の偉大なしかも多方面にわたる目的は神のうちに隠されていたのですが、今や地上の人々にだけでなく、霊の世界の支配者や権威者にも知れわたったというのです。「天にある支配と権威」とは、暗闇の世界・悪魔の霊的軍勢のこと、また、天使たち・神の国の霊的軍勢のことでもあります。サタンと天国の軍勢・そして霊的世界の隅々にまで、キリストによっていっさいのものをご自身と和解させるという奥義を、教会を通して知らせてくださるというのです。天の領域の全ての支配者や権威者が、世界という劇場で起こることを見ることになるのです。彼らは多面的な神の知恵～平和をもたらし、分裂を終わらせ、崩壊を癒し、すべてのものを回復する驚くべき計画～を見ることになります。これらすべてのことが、教会によって実行に移されるというのです!

神による贖いの目的の実現—神の多面的な知恵

教会によって実行に移される



永遠杯 (エターナル・カップ)

競技場は人々で溢れかえり、フィールドでは試合が行われています。

フィールドには二つのチームがいます。暗闇の王国と、光の王国 (=教会) です。スポーツの試合のように、スタンドには双方のチームのサポーターがいると考えましょう。それぞれのチームにはコーチがいます。イエス・キリストが教会側のコーチです。暗闇の王国のコーチはサタンです。神の子イエスは、戦略的なゲームプランを持っています。イエス様の戦略は素晴らしく、また多角的です。

教会がコーチのゲームプランに従うとき、ワールドカップより優れた杯、エターナルカップ (永遠杯) を手にするのです！教会は地上においてだけでなく、永遠においても優勝するのです。

(＊比喩を使うと、常にいくつかの要点が捨象されます。しかし、理解を助けるために私たちは比喩を使います。この比喩においてもそうです。イエス様とサタンは同列ではありません！イエス様は全能の神の子であり、神格を持っています。しかしサタンは墮落した天使であり、その力は限られています。)

「奥義」

明日、私はジャマイカでの訓練会の奉仕に行きます。私は飛行機に乗り、シートベルトを締め、・・・そして寝るでしょう！

これまで、これほど便利な世界に暮らした人々はいません。人々は空を飛ぶ夢を持ちました。自宅の実験室で作成した翼をくりつけ、崖からジャンプし、その「翼」を羽ばたかせ・・・そして墜ちました。

飛行原理という秘密を知らなかったので、長い間、失敗を続けました。その秘密は長い間、神のうちに秘められていました。

ついに、飛行の秘密が明らかになる時がやってきました。知識と知恵に長けた人々によって秘密が発見され、今日、私たちは飛ぶことが可能になりました。

聖書が語っている「奥義」とは、飛行原理の発見というようなものではなく、人間の側からは到達することのできない、神だけが明らかにすることができる秘密のことです。

長い間隠されてきた驚くべき奥義が、時が満ちて、神に選ばれたパウロによってエペソの教会に宛てた手紙の中で明らかにされたのです。そしてこの奥義は私たちにも宛てられているのです！

奥義の解明

エペソ人への手紙1章は、奥義についていくつかの難解な質問を投げかけます。それらの質問のいくつかに、今は答えられるのではないのでしょうか。

質問：神はなぜ、「教会のために」いっさいのものをキリストの足元に従わせ、いっさいのものの頭となるように意図されたのでしょうか？

解答：それは、神がご自身の目的を達成する手段として「教会」を選ばれたからです。いっさいのものを癒すという創造者の永遠の目的を達成するために、教会が中心的な任務を担うというのです。こんなに偉大な目的と特権が教会に与えられているというのです。何という素晴らしい特権でしょうか。

質問：キリストが「いっさいのものをいっさいのものによって」（エペソ1:23）満たされるならば、教会の役割とは何なののでしょうか？

解答：キリストのからだである教会は、キリストと同じことをするように召されているのです。キリストは社会生活の全ての必要を満たされるお方です。ですから、教会もまた知恵を尽くして、崩壊を癒される神の御計画に従って、社会の全ての領域に入っていくことが求められているのです。キリストのからだとしての「神の民」は、個人・家族・地域生活に入り込み、神がいっさいのものをご自分と和解させたいと願っておられることと、その力があるお方だということを世に顕す必要があります。教会が宣べ伝える希望は、人間社会が提供してくれる希望ではなく、奥義そのもの「**あなたがたの中におられるキリスト**」が提供してくださる**栄光の望み**に基づくものなのです。（コロサイ1:27）

ですから・・・

神は、ご自身の偉大な御計画である贖いの目的を、信仰者である個人を通してだけでなく、教会（地域教会および普遍的教会）を通して成し遂げたいと願っておられるのです。教会がその任務を実行に移すとき、地域社会および国々において神の目的が達成されるのです。

つまり、社会を変えるという点において、教会は国家の大統領や首相・議員たち・経済界の指導者よりもはるかに重要な役割を担っているのです。神がその偉大な御計画を実行に移すために指名された主要な、かつ戦略的に最重要な機関は、政治界や経済界ではあり

ません。神は教会を指名されたのです。そして私たちは教会の頭であるお方に仕えています。私たちはこの「市長であるお方」のために働きます。そしてこの市長はすべてを癒す計画を持っておられるのです！

地域社会で奥義を現す

どの時代、どんな場所においても、地域教会には「選択」が迫られています。「地域に立てられたキリストのからだ」として、神の御計画の執行者となるか、ならないかという選択肢が与えられているのです。日本という国に立てられた諸教会にも、同様の選択肢が与えられています。モーセがエジプトから導き出したイスラエルの民にも、あの世代の選択肢が与えられました。神はご自身の計画は、彼らが約束の地に入ることでしたが、彼らは恐れしました！信仰がなかったために、神の真実と目的とを体験することができませんでした。結果として、あの世代が約束の地に入ることはありませんでした。神は祝福をその世代から取り上げ、次の世代に渡されたのです。

神は、偉大な目的を達成するために地域教会を選び、比類のないユニークな力を与え、働きを推進できるように準備してくださっています。

- 地域教会は地域の縮図です。もし地域教会が神の御心に従うなら、社会に対して神の御計画のモデルとなることができます。
- 地域教会が神の御心に従うなら、その地域において、神の似姿と御性質を鮮明に現すこととなります。神が置いてくださったその地域で、「神の副統治者」として全被造物に仕えることになるからです。
- 神は教会にリーダーたちを備え、与えてくださっています。リーダーたちは、神の偉大な目的のために教会の信徒たちを整えます。「神の民を整えて主の働きができるようにし、その奉仕を通して神の統治を拓げる」というのは、すべての教会リーダーに当てはまる「教会リーダーの包括的な職務内容」なのです。(エペソ 4:11-13)
- 地域教会は教会全体として全員が協力して地域における働きを進めると同時に、個々のメンバーがそれぞれ置かれた場で地域社会に仕え影響を及ぼすために、彼らを整え・派遣するのです。
- 地域教会は神の御計画の全体像を現すようにとの召しを与えられています。その他のクリスチャン団体に与えられているのは、より限定された使命です。

ハーベスト財団での奉仕を通して、人々が神の御計画に仕えた時、個人・教会・地域社会そして国家に至るまで大きな影響力を与えるようになったという数多くの証を聞く特権に与りました。既にこの奥義を実行に移してきた多くの神の民の証を、私はこの本に掲載しましたので、参考にしてください幸いです。

しかし、この章で私はあなたに違うことを提案したいのです。ここであなたに少し時間をとって考えていただきたいのです。あなたの置かれている地域社会に思いを巡らし、崩壊している特定の領域に目を向けていただきたいのです。そして、あなたの所属する地域教会がこの地域に和解と癒しをもたらす執行機関であることを思い描いてください。あなたの教会に集う人々が、キリストの満ち満ちた姿によって崩壊した社会のいっさいのものを満たしている姿を想像してください。何が見えるでしょうか？どんなビジョンが湧いてきましたか？もしイエス様があなたの住む地域の市長だったら、あなたの地域にはどのような変化がもたらされるでしょうか？

奥義の要約

パウロはエペソの信徒たちにこの書簡を通して啓示された奥義を明らかにしました。この書簡には、教会の目的、戦略に関する神の啓示が網羅されています。彼はこの奥義をエペソの信徒たちに伝え、そして私たちにも伝えているのです。

神の偉大な目的は、教会を通して達成される。

- いっさいのものはキリストの足の下に置かれる。
- キリストはすべての頭である－教会のために。
- 教会はキリストのからだである。
- 教会はキリストの満ち満ちておられる場である。
- かつての敵（サタンや悪霊ども）は一致団結している。
- 教会は奥義を実行に移すように召されている。
- 教会は多面的な神の知恵を現すように召されている。
- 教会は、神の御計画を支配者、権威者にも知らせる役割を持つ。
- すべての地域教会のリーダーのなすべき仕事内容を要約するなら、「地域への奉仕のために教会員たちを整えて弟子とする」ことである。

教会は、神の偉大な御計画とダイナミックにつながっている。

- すべての被造物を包含する神の目的は、いっさいのものをキリストの下に回復することにある。
- 教会の役割は、神の偉大な御計画を実行に移すことである。
- 教会は、キリストのからだであり、キリストの満ち満ちておられるところである。
- キリストの下にいっさいのものを回復するという神の目的は、「教会のため」である。
- キリストに従う者、つまり「私たち」が教会そのものである。

- 神のこの目的のなかで、私たちはあるひとつの役割を果たす。それは「相続する」という壮大な役割である。
- キリストが血を流されたのは、いっさいのものが回復されるためであった。その手始めとして、神と人類との間の破れた関係の修復を成し遂げてくださった。
- この回復の業は、神から「遠く離れて」しまった人類を、キリストを通して、神との関係に連れ戻すところから始まる。
- 回復された人々はキリストの似姿を生きることになるので、被造物のすべての領域において(特に自分が影響を持つ現場で)神の御心を現すことができる。そのとき、神の変革と回復の御計画は推し進められる。
- キリストが再臨なさって、万物の和解は完成する。神の民に今日委ねられている責任は、神の支配される領域を拡大し、「主人が戻られるまで地上を占領 (Occupy) することである。「私が帰ってくるまでこれで商売 (Occupy) をしなさい。」(ルカ 19:13) (* King James 訳では”Occupy till I come”)
- 神の民は、再び、神の副統治者としての特権に与る。

奥義の宣言

奥義がどれほど壮大であるかを別の言葉で現している「メッセージ記 (the Message)」聖書のエペソ人への手紙箇所 (エペソ 1:22-23) を見てみましょう。非常に力強い文章です！

神は一切のものの責任者であられ、一切において最終決定をなさるお方です。この一切の中心で、キリストが教会を治められます。つまり、私たちが目にしている教会は世界の周辺部に位置している存在ではなく、世界が教会の周辺をとりまいているのです。教会はキリストのからだです。キリストが語り、行動なさり、臨在によって一切を満たされる場～それが教会です。(the Message Version Bible)

神がご自身の奥義を私たちに分かち合ってくださいとは、何という大きな特権でしょう！教会の中にはキリストが満ちておられます。このキリストの姿を世に現すように私たちには力が授けられているのです。現代に生かされている教会も、私たちが仕えている世界に向かって、この奥義を宣言していく任務を授かっているのです。

エペソ人への手紙

エペソ書は聖書の中で、教会のビジョンと目的について最も明確に語っている書簡です。パウロが、長きにわたって隠されてきた奥義—神の偉大な御計画と、教会を通してその御計画を実行に移すという神のご計画—を明らかにしたのもエペソ書の中でした。

エペソの教会はこの啓示を受け取るのに最も適した教会でした。長期間、指導者としてパウロと共に働いたアポロ、プリスカとアクラらによってその土台が築かれたと思われます。パウロは、この群れの世話をさせるためにテモテを派遣しました。使徒ヨハネとイエス様の母マリアも、この教会のメンバーであったと伝えられています。

パウロは他のどの教会で過ごしたのよりも長い期間をエペソで過ごしました。エペソに着いた最初の3ヶ月間、ユダヤ人の会堂で神の国について教え、人々の反対に逢ってからはツイラノの講堂に移り、そこで2年間教えています。そこを去った後、いつもしていたようにエペソの教会に対しても手紙を書き送りました。その手紙がエペソ書です。他の手紙と同様、この手紙は他の地方の教会にも回し読みされたと思われませんが、もともとはエペソの信者に宛てられたものでした。

エペソの教会は、信仰の初歩的学びの段階を終え、啓示としてパウロに与えられた教会に関するより深遠な教義を受け取る準備ができていた教会でした。パウロ（そして聖霊）は、これらの成熟したキリストの弟子たちに、個人的な魂の贖いの先にある段階に進んで欲しいと願ったのです。パウロは彼らに、「教会のために神が準備しておられる偉大な目的」という奥義を分かち合ったのです。

Scott Hahn, *The Splendor of the Church*